

WHO ファクトシート

黄熱病

Yellow fever

2018年5月1日

重要な事実

- ・黄熱病はウイルス性の急性出血性疾患であり、感染した蚊が媒介して感染する。病名の「黄色」は患者によっては黄疸がでることに準拠する。
- ・黄熱病の症状には、発熱、頭痛、黄疸、筋肉痛、吐き気、嘔吐及び倦怠感がある。
- ・ウイルスに感染した患者の内、重篤な症状まで進むのはわずかな割合であるが、その約半分は7～10日以内に死亡する。
- ・このウイルスは、アフリカ及び中南米の熱帯地域で流行している。
- ・黄熱病の大流行は、多くの人々が予防接種していないため免疫がほとんど又はまったく無いように蚊の多く生息する人口密集地に、感染者がウイルスを持ち込んだ際に発生する。このような場合には、感染したアエデス・エジプト種の蚊が人から人へのウイルス感染を行う。
- ・黄熱病は非常に有効なワクチンにより予防可能であり、そのワクチンは安全で手頃な費用で入手可能である。黄熱病ワクチンは1回の接種で免疫力が生涯持続するに充分である。追加のワクチン接種は必要ない。ワクチン接種後10日以内に80～100%の人に、30日以内に99%以上の人に十分な免疫力ができる。
- ・病院での適切な支持療法は生存率を高める。黄熱病に対する特異的な抗ウイルス薬は現在のところない。
- ・2017年に開始された黄熱病流行排除(EYE)戦略は、画期的なイニシアティブである。50以上の関係機関が関与するEYEパートナーシップは、アフリカとアメリカのリスクのある40カ国が黄熱病の疑いある症例と流行を予防し、検出し、対処することを支援する。パートナーシップは、リスクのある集団を保護し、国際的に拡散するのを防ぎ、流行を早急に押さえ込

むことを目指している。2026 年までに、10 億人以上の人々がこの疾病から保護されることが期待されている。

本件ファクトシートについて、厚生労働省検疫所ホームページの[こちら](#)では全文の日本語訳が公開されていますので、ご参照下さい (改定前)

© World Health Organization

この文章は、日本 WHO 協会が WHO のメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014 年 3 月に WHO 本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含め WHO ホームページでの原文をご確認ください。

Yellow fever ファクトシート原文は [こちら](#)